

「主宰の一句」

手の届くところ素直に青木の実

人はおうおうにして、手の届かぬものに憧憬を抱くのですが。

青木の実に触れたとは書かれていませんが、「素直に」の語に従えばそつと青木の実に触れたに違いありません。

青木の花はひっそりと咲きます。実は、冬の深まりと共に艶めき、真っ赤になります。緑の葉も美しく、枯れた庭を彩ってくれます。青木の実は、やはり憧れを象徴するものでしょう。

ふと口遊むかのような上五・中七の流れを、下五が確りと受け止めています。

印象鮮明なる一句です。

(片山淳子)

草炎 345 号目次

これいいね！	表2
主宰の一句	1 片山 淳子
束の間	2 久行 保徳
海溝集（同人作品）	3 前田 雅治ほか
武蔵野通信（94）	15 根本 二郎
同人作品鑑賞	16 松原 君代
草炎集（久行保徳選）	18 長谷川満紀ほか
阿部友子さん大会賞受賞	33
草炎俳句賞	34 根本 二郎
草炎新人賞	39 槇田 敦子
まほろばの風（93）	40 矢野 達生
現代俳句鑑賞（VI）	42 河内 徹
共感この一句（343号抄）	44 佐伯三絵香ほか
共鳴句抄	45
兼題句『法師蟬』	46 久行 保徳
次代の新しい風	48 石川 芳己
小さな詩人たち（65）	50 石川 芳己
市民俳句教室秋の吟行	52 藤兼 雅幸
『現代俳句年鑑2018』を読む	53 松原 君代
支部・句会作品	54
70周年記念祝賀会ご案内	表3
「佳境祭」ご案内	表4

題字：大中祥生